

教育子午線

Autumn
2005

Kyoiku-Shigosen



●教育最前線

「確かな学力」の

育成に向けて

教師の指導力に何が必要か

●日々是研究

中澤 渉

●Watching ゼミ&講座

上地安昭ゼミ

●キャンパス通信

●附属だより

●うれしの交差点

ロゴマークとマスコットキャラクターの入賞作品が決まりました

このたび、兵庫教育大学のロゴマークとマスコットキャラクターの原画を公募したところ、全国からロゴマーク338作品、マスコットキャラクター156作品という多数のご応募をいただきました。ご応募くださった皆様にご心からお礼を申し上げます。

選考委員会で厳正な審査を行い、最優秀作品(原画採用作品)として、ロゴマークの部は菅谷健夫さん(埼玉県入間市)、マスコットキャラクターの部は新井信輝さん(東京都中野区)の作品を選びました。

選考にあたっては「日本の教育界のメッカ」のイメージにふさわしい作品であること、皆様により親しまれるデザインであることを念頭に審査しました。



学長 かした えい いち 梶田 毅一

兵庫教育大学は各県に一つずつある教育大学・教育学部の一つではありません。昭和53年に新構想大学として創設された兵庫教育大学は、全国的な視点に立つ、新しいコンセプトの大学です。連合大学院を主宰する形で博士課程を持ち、アカデミックな教育実践研究の面でもセンターになっていきます。日本の教育界に新しい刺激を与えながら、新しい時代に向かって、新しいコンセプトでの研究と教育・研修を展開していきます。兵庫教育大学はこの

意味で「日本の教育界のメッカ」として存在しているのです。

これから、選出作品を基にして、デザインの仕上げたものを正式なロゴマークとマスコットキャラクターとして制定します。これを機会に世の中にますますアピールして、これが「兵庫教育大学」だというイメージをはっきりとした形を持つていただけるようになればと期待しています。

【募集概要】

兵庫教育大学が「日本の教育界のメッカ」をめざし、社会に対して「開かれた大学」「発信する大学」としてのイメージを広く伝えていくことを目的にロゴマークとマスコットキャラクターの原画を募集しました。6月14日～8月10日の募集期間中、全国からロゴマーク338作品、マスコットキャラクター156作品が寄せられました。

【選考結果】

<ロゴマークの部>

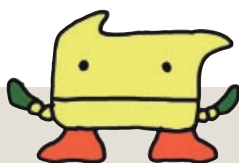


最優秀作品

菅谷健夫さん(埼玉県入間市)

入選作品…高橋達郎さん(神奈川県川崎市)、徳毛伸自さん(山口県下関市)

<マスコットキャラクターの部>



最優秀作品

新井信輝さん(東京都中野区)

入選作品…蔵前りつ子さん(福岡市)、杜多利香さん(神戸市)

【寸評】

選考委員 杉田豊さん
筑波大学名誉教授・
絵本作家・グラフィックデザイナー



最優秀作品に選ばれたロゴマークは平面的ですが、見方を変えれば立体的にも見えます。中央は完全なスパイラルではありませんが、いわゆる動的な躍進性が加算されています。キャラクターは「兵」の文字を使ったところにユニークさがあります。三次元的に表現すると、もっと面白くなる可能性を秘めています。今後、兵庫教育大学のロゴマークとマスコットキャラクターを使った総合的・ビジュアル的な展開に期待しています。

附属小学校6年生臨海合宿



6月

- 6日~27日
◎公開講座「中国:旅と詩と風景」(全4回)
- 16日
◎やさし国際交流サロン
- 20日
◎附属中学校写生大会
- 25日~7月30日
◎公開講座「楽しくてうまくなるテニス教室1」(全6回)
- 28日~30日
◎附属小学校5年生林間合宿

公開講座「楽しくてうまくなるテニス教室1」



7月

- 2日~8月6日
◎公開講座「カリグラフィー入門」(全6回)
- 3日
◎附属幼稚園「ほしぞらカーニバル」
- 14日
◎附属中学校人権学習発表会
- 16日~24日
◎公開講座「『生活力』を高めよう!」(全4回)
- 16日~31日
◎公開講座「陶芸教室」(全6回)
- 17日
◎オープンキャンパス
- 19日
◎附属小学校第1学期終業式
- 20日
◎附属幼稚園、中学校第1学期終業式
- 20日~22日
◎附属小学校6年生臨海合宿
- 21日
◎やさし国際交流サロン
- 24日
◎小・中学生のための夏休みサイエンス&ものづくり教室

9月

- 1日
◎附属幼稚園・小学校・中学校第2学期始業式
- 2日~3日
◎附属小学校4年生自然学校
- 8日~9日
◎附属幼稚園わくわくキャンプ
- 17日
◎附属中学校体育祭



附属中学校人権学習発表会

16 15 14 12 11 10 09 08 04

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

Autumn 2005

教育最前線

「確かな学力」の育成に向けて
教師の指導力に何が必要か

日々は研究

教育政策は何を行うべきか
行政には明確な意図の説明責任が求められる
中澤渉(教育・社会調査研究センター助手)

教育現場からの質問 教員の著書紹介

Watching Zinn & 講座

上地安昭ゼミ(生徒指導講座)

卒業生からの手紙

キャンパス通信

附属だより

附属中学校の研究
「確かな学力」の育成をめざして
松浦正史(附属中学校校長)

うれしの交差点

兵庫教育大学からのお知らせ

2003年、文部

科学省は学習指導要領を一部改正し、「確かな学力」の育成をより充実させることを打ち出しました。

「確かな学力」とは、問題解決力や思考力、判断力、表現力に学習意欲も加え、幅広い観点から捉えた学力であり、それまでの知識や技術の習得を重視してきた学力観とは一線を画します。

子どもたちの「確かな学力」を大きくむため、教師にはどんな指導力が求められるのか。現在、クローズアップされている指導力不足教員の問題も踏まえながら、考えてみましょう。

教師に求められる自己教育力

1989年の学習指導要領で登場した「新しい学力観」、98年の「生きる力」、それから一連の「確かな学力」。これら一連の子どもを学力をめぐるわが国の教育方針は、知識・技能の画一的な詰め込み教育から自ら学び自ら考える教育へ、

すなわち教師主体の「教授」

から子ども主体の「学習」への転換を学校に求めてきました。



しかし、教科の基礎学力低下問題を受けて、現行の学習指導要領の一部改正後に実施された小中全国学力テスト（2004年1～2月実施）の結果によれば、単純な計算式や漢字などの基礎学力は改善されたが、国語を中心に記述問題に弱く、文章表現力や論理的な思考力が育っていない実態が明らかになりました。また、学習意欲はやや向上しているものの依然、学習意欲の低下は深刻で、数学・算数や理科が「楽しくない」と感じる子どもが増加しています。

教師の多忙化が懸念される現在、学校は、思考力、判断力、表現力などを基盤とする子どもの問題解決能力をどうはぐくんでいくのか、子どもの学習意欲をどう喚起するのかがという課題に直面しています。しかも、こ

れらの課題は、教師にどのような能力を身に付けさせるかという教師教育の課題とも連動しています。

これまで教師には「教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教材等に関する専門的知識、広く豊かな教養をそしてそれらを基盤とした実践的指導力が必要である」と言われてきました（97年教養審第一次答申）。ところが、社会の変化が激しい現在では、教師が学校で起る課題に対応するために、実践的指導力の質をさらに高め、いく課題解決能力や、それを生涯にわたって向上させていく自己教育力が求められています。

実践的指導力の向上に必要な四つの能力

「確かな学力」を育てるためには、教師の自己教育力を基盤として、実践的指導力を向上させる四つの能力が必要であると考えられます【左図参照】。

一つ目は「子ども理解力」。学習者主体の授業では、教師が子ども一人一人の学習の様子を

的確に理解し、子どもの学びを確かなものにして、学ぶ力を身に付けさせなければなりません。教師には鋭い観察力と、子ども一人一人の学習過程や学ぶ心を受け止め、理解する能力が必要です。また、子どものニーズや能力、才能や個性、興味・関心などへの理解を抜きにして授業は成立しません。授業では教師の発問によって

子どもの学習意欲や

思考を喚起し、子ども自身に学習内容を学び

「確かな学力」の育成に向けて

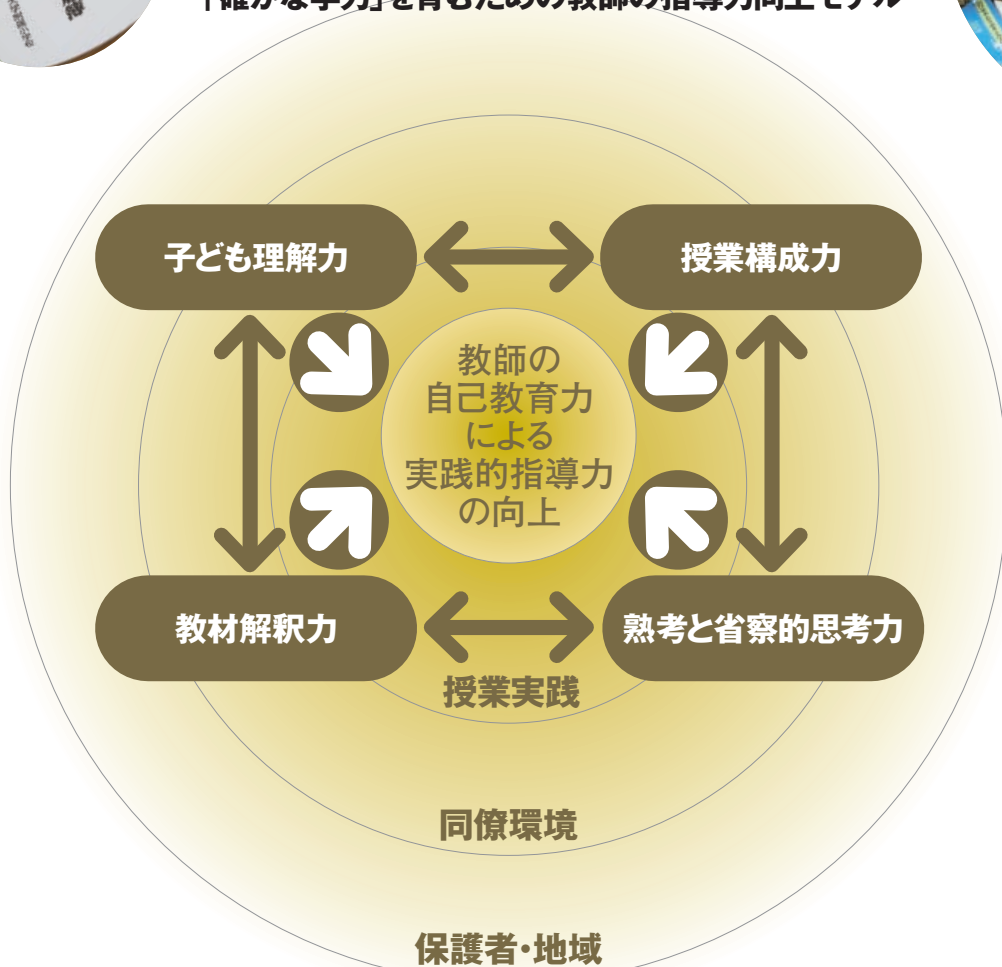
～教師の指導力に何が必要か



「確かな学力」を育むための教師の指導力向上モデル



取らせるよう
支援するため、教師は日ごろの子どものかかわりや、問いかけに対する反応・発言から個々の子どもの学習特性を理解しておくことが大切です。
二つ目は「授業構成員」。これまで授業は、教師の授業計画を



実現するために子どもの反応を制御してきました。しかし、今後は、子どもに主体的な学びを促すためには、子どもの思考や発想を引き出して、それを生かしながら授業の展開を構成していくことが求められます。「授業は不断の再設計過程」と言われ

ますが、子どもの反応に基づいた働きかけや授業の構成を構築していかなければなりません。そのためには、子どもの状況や反応を丁寧に解釈し、それを踏まえて子どもへの働きかけを考え、その働きかけの過程を評価するという一連の実践過程を遂行で

きるかどうかのカギとなります。
三つ目は「教材解釈力」。教師は教材内容を深く理解する力として教材解釈力が必要です。それは、教師がその教材について子どもにどのような発問を行うのか、子どもにこの授業で何を学ばせ、理解させたいのかを考える際に重要です。また、子どもに授業内容を理解させるだけでなく、さらに一歩踏み込んで、なぜそれを学ぶのかという、学習の持つ意味や価値を子どもにじっくり考えさせることが確かな学力の形成につながります。

四つ目は「熟考と省察的思考力」。教師は常に授業を振り返り、授業中における自分の思考や判断、それに対する子どもの反応や学習成果に関して、うまくいかなかった部分の原因を客観的に分析し、問題点を明確にしなが、自分の認識枠組を批判的に問い直す能力が求められます。授業を振り返ることで、その文脈に即した新たな洞察を見出したり、自分の認識枠組を修正したりしながら自己の授業の見方、考え方を改めていくのです。観察者である同僚教師や保護者、地域の人々との対話を通して、自分の考え方や意図を表現したり、観察者からの指摘や批評を新たな気づきとして受け

止めたりすることで、より深い熟考と省察が促進されます。
子どもの「確かな学力」をはぐくむためには、教師は自身の授業観・指導観に加え、子どもの視点を採り入れて、授業観・指導観を変えていくことが求められます。また、授業中の子どもへの反応とそれに対する働きかけについて振り返り、問題を改善していく努力が必要です。



◆TEXT=別惣淳二(学校教育研究センター助教授)

「確かな学力」を育てるために私が心掛けていること



そまもと かずや
杉本和也さん
附属中学校教諭

育てるカウンセリングの活用

学習に臨むにあたって無気力な状態では、分かるようにならう、できるようにならうといった前向きな気持ちにはなりません。学習を成立させるためには、前提条件として心身の安定状態が必要不可欠です。

確かな学力をはぐくむためには「確かな学力」を支える「動機づけ(motivation)」に焦点を当てるのが大切です。

私は、児童・生徒一人一人が学習面、心理・社会面、進路面における課題に取り組み過程で直面する問題の解決を援助し、自ら成長することを促進させる予防・開発的な「育てるカウンセリング」が重要だと考えています。

「子どもの心に寄り添う」ことです。具体的には、きめ細かな日常観察やアセスメントにより、子どもの心のエネルギーを的確に把握し、実態に応じたアプローチを行い、さらに児童・生徒の心身のエネルギーを高め、自己実現を図るという学校心理学の技法です。「教育は人なり」といわれますが、新しい教育への転換は、教師一人一人の理解と意欲、そして実践があつてこそ進展します。日々の教育実践を確かに行いつつ、常に研修や研究に取り組むことが原点だと考えます。



はっとり ひでお
服部英雄さん
附属小学校教諭

確かな指導力は「解釈力」から

子ども理解や教材研究、カリキュラムづくりと、さまざまな要素があります。その中でも「解釈力」が重要だと考えています。

教育現場では、確かな学力をはぐくむことが大きな課題となつていきます。そして、教師の指導力があらためて問われています。

解釈力は、物事や人の言動などについて、自分なりに考え、理解する力のことです。つまり、子どものことや教材がただ分かるだけでなく、自分なりに考えて、自分の言葉で説明できる能力を指します。教師は解釈力を発揮させて、子ども理解や教材研究を行っていくのですから、解釈力が高いほど教師の力量は高いと言えます。

また、解釈力は良い授業をつくるためにも重要です。教師は授業を進めながら、子どもの思いや考えを解釈します。しかし、この解釈が未熟だったり、子どもとズレていたりすると、良い授業にはならないのです。それだけでなく、授業での学びが子ども一人一人にとつて、どのような意味や価値があるのかも解釈しなければなりません。そして、解釈したことを子どもと共有することで、子どもの学ぶ意欲や主体性をはぐくむことができます。





『内面性の教育と確かな学力』

かじ た えい いち
梶田 毅一 学長

「内面性の教育」とは、子どもたちが学んだことを自身の内面に根付かせること。このためには、子どもたち一人一人の顔の後ろ側にある内面世界に指導を届かせなくてはなりません。

授業で子どもたちに「みんな分かったかな」と聞くと、異口同音に「分かったあ」と返ってきます。このような反応で安心している先生がいれば、今すぐに教壇を去るべきです。さまざまな調査で「分かった」と答えた子どものうち、本当に理解しているのは約3割との結果が出ているように、こうした授業では子どもの内面性が省みられていません。

日本では人間形成の過程において、内面を磨くことをおざなりにし、社会性や協調性がばかりを重視する傾向にあります。当然、社会性も協調性も大事ですが、とりあえず仲良くしよう、人に合わせよう、協調性が「同調性」になっています。だから、一人一人、意見や感想は違うはずなのに、先生の問いかけに対しては、口をそろえて「分かったあ」になるんですね。

では、一人一人の顔の後ろ

側へ届かせる指導とはどういうものなのか。子どもたちには親や先生には見せない世界があります。先生は、子ども同士の会話に注意深く耳を傾け、また子どもたちがどんな雑誌を読んでいるかチェックしてみたいかがでしょう。今の子どもはよく「ヤバイ」と言いますが、私たちが使う「やばい」とは違いますよね。同じ言葉でも世代によってニュアンスは微妙に違ってきます。

生活科や総合的な学習は、子どもの気づき、子どもの心のときめきを大事にしようとする活動の場です。前頭葉で理解する教育に対し、大脳中枢を震わせる授業ですね。総合的な学習の狙いの一つは、子どもの内側の世界を耕すことです。人間教育研究協議会では、授業づくりにおける実践研究の指針をこう掲げています。「我々は、子どもの一人一人が自己の内面世界（実感・納得・本音の世界）に着目し、それを深め、広げていくと同時に、自己の内面世界に依拠して判断し、行動し、そこから個性的な独自の何かを生み出すようになることを願う」と。

私たちは内面性の教育を実

践していくうえで、この願いを基に手立てを打っていく必要があります。それが「我々の世界を生きる力」と「我々の世界を生きる力」を大きくむかいつながっていきます。

「我々の世界を生きる力」とは、子どもたちが学校生活を通して、他人と手をつなぎ合うこと、互いの個性を認め合うことの大切さを知ることです。これが分からないと我々の世界では生きていきませんよね。そして、学力を身に付けることの必要性、自分に与えられた責任を果たすことの重大さを実感し、同時に礼儀作法も学んでいく必要があります。

一方、「我の世界を生きる力」は、一人一人が自分の人生を大事に思い、充実させようとする努力。つまり、自身の実感・納得・本音の世界を耕すことです。そのためには多様な体験や読書が大きな意味を持ちます。

内面性の教育は、子どもとのかかわり方といった方法論と、子どもにこういう人になってほしいという目標論から成り立っています。これは2003年から文部科学省が提唱している「確かな学力」

の考え方の土台になると考えています。

確かな学力とは、1990年代の子どもにすべてを任せようという無責任なゆとり教育でもなく、その反動として2001年、02年に打ち出した基礎教育の徹底という、授業の楽しさを軽視した教育でもない。日本の教育界が昔から考えてきた総合的な子どもへの育ち、バランスの良い育ち、子どもへの細やかな目配りを指し、これらを今一度、見直そうというものです。

文部科学省は「確かな学力とは基礎的な技術・技能を徹底して身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力などを育成する」と定義しています。「基礎的な知識・技能」と「自ら学び、自ら考える力」の双方が相まってこそ、真の総合的な学力が身に付くのです。

子どもたちと表面だけかわっている授業をしていては、子どもは自身の実感、納得、本音に問わず、周りに同調して目の前の正解だけを覚えようとしています。これでは人間としての底力のある育ちを実現できず、確かな学力に結びつきません。

2001年と03年に、国

際教育到達度評価協会（IEA）と経済協力開発機構（OECD）が行った国際比較調査の結果を踏まえ、文部科学省は現在の日本の子どもについて四つの課題を挙げています。まず、読解力の低さ。これには国語だけでなく、さまざまな情報を分析し、それを活用する力も含まれています。次に算数・数学の応用問題が苦手である。三つ目、理科についても論述形式の問題が弱い。四つ目が学習意欲・学習習慣の低さです。

文部科学省ではこれらの課題に対し、改善の方向を示していますが、実現するために内面的なアプローチが不可欠です。今までの教育の中にあった、外面を取り繕い、他人との同調を助長するような授業を改めないと解決できません。単に小手先で授業方法を变えるだけでは無理です。ぜひこのところを心に留めていただければと思います。

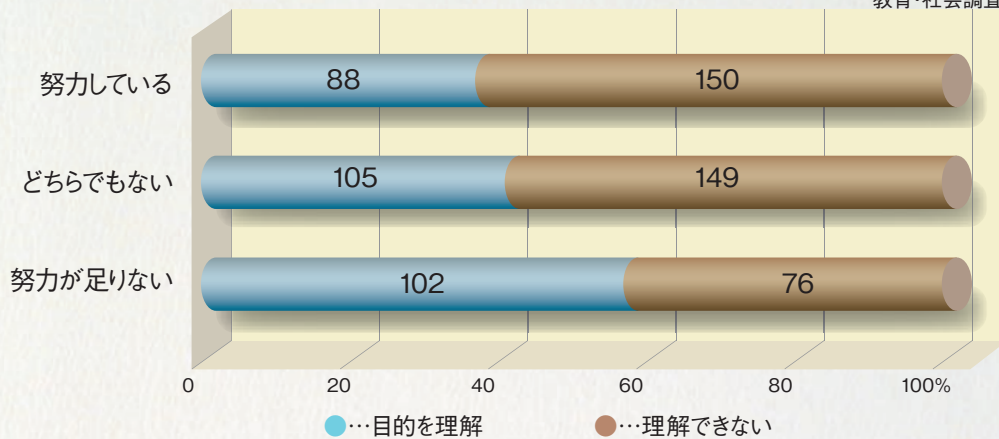
この講演は、8月11日、12日に開催された人間教育実践交流会「2005 伊丹フォーラム」で行われました。このフォーラムは、著名な教育者による講演、各地の学校の事例発表や討論などを通して、教員の指導力向上をめざそうというもの。20回目を迎えた今年、いたみホールなど伊丹市の施設や小学校を会場に開かれ、全国から860人の教員が参加しました。

なか ざわ わたる
中澤 渉

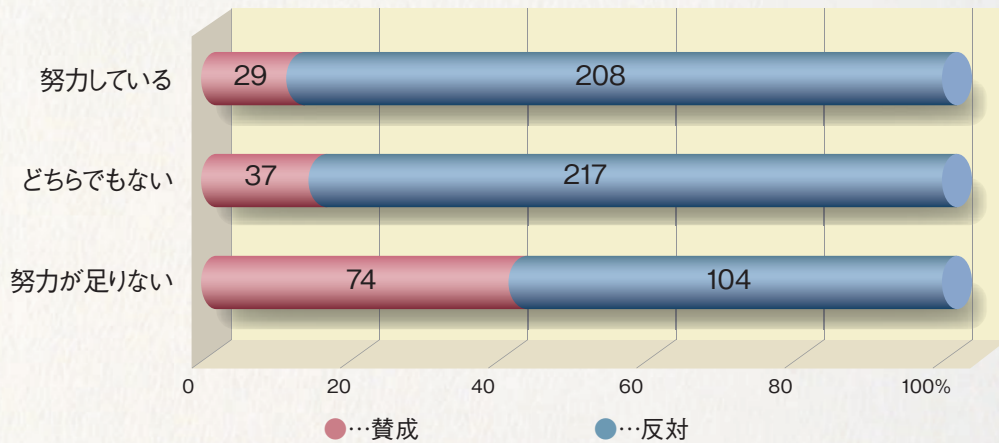
教育・社会調査研究センター
助手



『改革の目的を理解している』と『教員の努力度の自己認識』の関係



『現在の教育改革に賛成』と『教員の努力度の自己認識』の関係



教育政策は何を行うべきか
行政には明確な意図の説明責任が求められる

教育社会学を専門とする私は、社会階層や教育、若年労働者に関するデータをを用いてさまざまな分析をしてきました。とりわけ、矢継ぎ早に実施される教育改革の方向性や実施の仕方は本当に正しいのか、現行の教育改革のどこに問題点が潜んでいるのか、に着目してきました。

学校現場ではさまざまな試みが実施されていますが、その改革の重要な担い手は教員です。今回は苅谷剛彦東京大学教授、金子真理子東京学芸大学教授、清水睦美東京理科大学専任講師と共同で実施した調査データを利用します。調査方法は、全国8都県の公立小・中学校教員名簿から3,200人を無作為に抽出し、郵送で回収しました。郵送のため回収率はおおよそ2割と低いのですが、結果的に673名の教員から回答を得られました。

上の2つのグラフをご覧ください。非常に簡単にまとめたもので

ですが、教員の自己認識として「自分たちは改革に向けて努力している」と答えた人ほど、現在の教育改革を行う意味が理解できず、賛成できないという声を上げています。このことは非常に深刻な問題です。

学校は一つの組織です。現在の学校教育の問題点や改革の必要性は多くの人が認識しています。ところが現場で働く教員の声は、どこまで政策に反映されているのでしょうか。政策と現場のすれ違いは責任の所在を不明確にします。教員へのバッシングや教員の自助努力で問題が解決するとは思えません。現場の当事者である教員の声に耳を傾け、個人的な努力でカバーできない部分をサポートすること、何より明確な政策の意図の説明責任が行政には求められています。その説明責任を果たすためには、客観的なデータの提示が必要になるのは言うまでもありません。

Q&A



アドバイザー

たか はし み ゆ き
高橋美由紀

実技教育研究指導センター助教授

Q 近年、英語活動を実施する小学校が増えてきました。取り上げる題材など、教師はどのように英語活動に取り組みたいのでしょうか。



A 現在、約92%の公立小学校で英語活動が導入されています。外国語指導助手（ALT）単独の指導や、私立小学校の英語教育の内容をまねた第1ステージはすでに終わり、公立小学校に適した英語活動という第2ステージの幕が上がりました。

第2ステージのキーワードは「担任教師主導」。子どもたちの日常生活を把握している担任教師が英語活動を指導することが望ましい、と文部科学省が発行した『小学校英語活動実践の手引き』にも言及されています。しかしながら、「何をどう教えるればいいのか」という不安を抱いている教師も多くいます。担任教師主導のメリットを生かした英語活動として、まず「他教科に連携した内容」を取り

入れた授業が挙げられます。例えば、理科の「生き物とその生息場所」「天気や温度」「色水の変化」「もの浮き沈み」、社会科の「世界の国々とその文化」、家庭科の「調理方法」「カロリー計算」、算数の「図形」「計算問題」などを英語でコミュニケーションを図りながら行うのです。さらに、流行している遊びや修学旅行といったトピック、日常生活の「日直当番の仕事」や「給食の献立」「教室の掲示物」などにも英語活動を取り入れられるでしょう。

このように、子どもたちの日常生活を通して英語に慣れ親しませるのです。これからの英語活動において、担任教師の役割は大きくなると思います。



特に現職教員である大学院生に人氣が高い授業「小学校英語教育論」



Books

教員の著書紹介

『台湾原住民と日本語教育 - 日本統治時代台湾原住民教育史研究 -』

晃洋書房・2004年12月刊
著者：松田吉郎（社会系教育講座教授）

本書は、日本統治時代の台湾（1895～1945年）における台湾原住民に対する日本語教育を研究したものである。原住民はマライ＝ポリネシア語族に入り、現在、台湾の人口2200万人のうち、40万人前後と少数民族に属するが、台湾への定着は有史以来といわれ、漢族の500年前からの台湾移住よりも古い。原住民は9種族といわれ、海岸部に住む人々と山に住む人々に分かれる。日本統治時代、海岸部に住む人々に対する初等教育は国語伝習所や公学校で行われ、教師は師範学校出身者であった。一方、山の人々に対する初等教育は教育所で行われ、教師はすべて警察官であった。

本書では、国語伝習所や公学校、教育所の教育制度、教育内容、教師と生徒とのかかわりを考察している。

『模索されるeラーニング 事例と調査データにみる大学の未来』

東信堂・2005年6月刊
実例抽稿：中村哲（社会系教育講座教授）
編著者：吉田文、田口真奈

本書の問い掛けは「ITは大学をどう変えるか」である。現代社会においてIT活用は、個人の生活領域から社会の諸活動に至るまでさまざまな変革を生み出している。高等教育を担う大学の運営組織、教職員と学生の役割、「教授・学習」の方法などにも大きな影響を与えている。このような状況において、先進的の大学はITを積極的に取り入れて、特色ある大学づくりに取り組んでいる。本書では金沢工業大学、信州大学大学院、東京工科大学、園田学園女子大学、京都工芸繊維大学など13大学の取り組みを実地調査し、IT活用の効果と課題を検討している。事例の一つとして、抽稿「ウェブサイト活用による教育大学の授業イノベーションー兵庫教育大学における中村研究室の試みー」も掲載している。

※教員の著書は附属図書館で閲覧できます。詳しくは学術情報課 ☎0795-44-2062へお問い合わせください。

教育は「パッション！ フィロソフィ！ チームワーク！」だ

◆執筆者 今村浩二
大学院学校教育専攻
生徒指導実践コース2年

修士課程2年生が8人、1年生が9人（夜間生2人を含む）、総勢17人のオール現職院生が上地ゼミのメンバーです。おそらく兵庫教育大学ナンバードンのビッグファミリーではないでしょうか。伝統的に上地ゼミは院生の数が多いのですが、その魅力はおそらくゼミ生でないと分からないでしょう。

上地ゼミのモットーは「教育はパッション、教育はフィロソフィ、教育はチームワーク」。ゼミ生の研究室は教育・言語棟6階の620号室。課題研究は毎週

金曜の午前から午後にかけて集中的に行われます。

ゼミの雰囲気は、明るく和やかですが、研究討議は真剣そのもの。厳しさと緊張感が漂っています。上地安昭先生の妥協のない指導の下、文字通りお互いが本音を出し合っつて切磋琢磨できる場と言えます。昨年度から助手の隈元みちる先生もゼミに加わり新鮮なアドバイスをいただいています。

ゼミ生同士は年齢に関係なく仲が良く、互いに支え合い、時には三宮のビアレストラン「ニューミュヘン」で懇親会を開くなど、大学院生活を楽しく有意義に送っています。また、自主研修にも力を入れており、今年も恒例の「箱庭療法」と「構成的グループエンカウンター」の研修会を開催

Watching ゼミ & 講座



うえ ち やす あき
上地安昭ゼミ
生徒指導講座

しました。

上地先生は、日本における「ブリーフセラピー（時間制限心理療法）」の第一人者で、とりわけ「学校カウンセリング」や「学校の危機介入」の問題に造詣が深く、多数の著作や学会活動、講演会、研修会を通して、最新の研究成果を発信し、知名度も抜群です。また、学問に対する厳しい姿勢だけでなく、カウンセラーとしての本質的要素である温かさや懐の深さを併せ持っておられ、ハツ！と目からうろこの落ちるような気づきを誘発されることも多々あります。

上地先生は日ごろ、「有能なゼミ生に恵まれ、本当にやりがいがあり勉強になる」と、私たちの自尊心を高めるような思いや

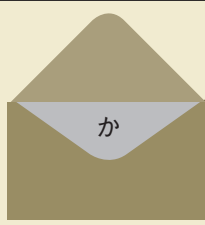
りを示され、私たちが自身もやる気がさらに高まります。これまでのゼミ修了生は百数十人のほり、学校現場や大学で活躍しています。

上地先生は今年度をもって兵



上地教授を囲んで(教授の右隣が今村さん)

庫教育大学を退職されます。最後の上地ゼミ生として学べることは実に幸運であり、ゼミ生一同、大いに誇りに感じています。



はた あつこ
畑 敦子さん

姫路市立城乾小学校教諭

明石市出身。2004年3月、学校教育学部教科・領域教育専修社会系コースを卒業。卒業論文のテーマは「若者の宗教意識に関する一考察」。2004年4月から姫路市立城乾小学校に着任し、今年度は1年生の担任として教壇に立つ。



はし もと ただ かず
橋本忠和さん

安富町立安富北小学校教諭

宍粟市出身。2001年3月、大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻芸術(美術)コースを卒業後、三方小学校、繁盛小学校(ともに宍粟市)と自ら小規模校を希望し、2004年4月から安富町立安富北小学校に勤務する。第33回教育美術賞(佐竹賞)受賞。



子どもたち一人一人の話に耳を傾けます

↓「先生」と「おねえちゃん」の間で

「おねえちゃん!」

今年度、担任している1年生の中には、たまに呼び間違える子がいます。でも、これは子どもたちと私との関係を物語っているのだと思います。きっと教師2年目の私は、子どもたちにとって「先生」と「おねえちゃん」の間のように感じているのでしょう。

私自身は、また同じ学年を担当することがあるかもしれませんが、子どもたちの1年には「もう一度」はありません。そう思うと、子どもたちの大切な1年を預かる責任に、不安になり、悩んだりもします。それでもやはり、素敵な職業だなと感じる瞬間の方がたくさんあります。子どもたちと一緒に考えるとき、競走をしているとき、お絵かきをしているとき、嫌いなトマトを励まし合って我慢して食べたとき…。

子どもたちとともに過ごし、笑ったり、怒ったりする中で、子どもたちの成長を見つめながら、自分自身も成長させることができ、「こんなに面白い仕事はほかにはない!」と感じています。

「今の私が子どもたちにできること」を最大限に実践していくことと、おねえちゃんのように仲良しだけど、ピリッと締めりのある関係をめざし、試行錯誤する日々です。

「先生って、怒ったらコワインやでえ!」というわさを耳にするとなぜか少しうれしくなるこのごろです。

↓地域・大学とのパートナーシップに支えられて

現在の安富北小学校で小規模校に勤務して3校目になりますが、日々、小規模校における地域とのパートナーシップの大切さを強く感じています。先日、子どもたちが「昔の食事作り」にチャレンジしましたが、地域の方々に授業への協力を依頼すると、打ち合わせに児童数18人に対し、8人の方々が集まってくださいました。そして、「先生、「どろぼう煮」おいしいで」などと、次々とメニューを提案してくれました。子どもたちに「昔の地域の良さを知ってもらいたい」という熱意がひしひしと伝わってきました。

実はこの熱意を高めるのに、オープンスクールの期間に行ったある授業がかなりの効果を上げていました。それは、兵庫教育大学の先生や院生と協働で取り組んだ「ふるさと屏風作り」の授業です。地域の方々は、大学の先生が「昔のふるさとの様子を生き生きと表現するにはどうしたらよいか」と熱心に指導されている様子を大変興味深く見つめておられたのです。どうやら、その時、おばあさん方に「孫の屏風に負けない食事を作るぞ」という思いが芽生えたようです。

大学とのパートナーシップが地域とのきずなを深めてくれた良い例と言えます。また、大学との連携は、教師の力量を見つめ直し、高めるのに大変役立っています。



台風によるスギ山の現状を探る授業にて



インドネシア・アチェの教師たちと

部長と教員
2人、臨床
心理士2人
によってチ
ームが編成
されました。
教育臨床

このプログラムは3つのステ
ップを踏んで進行しています。第1
段階として、5月にEARTHメ
ンバーらが現地に赴き、現地の教
職員組合や教育省、医師団などと
協議して支援プランを作成。富永
教授が参加した第2段階で現地の
教職員30人への研修を実施し、秋
に予定されている第3段階では、
その30人が指導する立場に回り、
各地方の200人の教職員を集め
て研修を行います。
「教師たちも被災者
です。トラウマの



教育臨床講座

とみなが よしき
富永良喜教授

自然災害、虐待やDVなどの暴力、犯罪によって傷
ついたり子どもたちへの心理的支援に関する研究、
予防教育としてのストレスマネジメント教育に関す
る研究、トラウマへの心理療法としての認知動作療
法の研究に取り組んでいる。最近では、豊岡の台風
被害に遭った家庭、JR福知山線列車脱線事故の被
害者や遺族に対する心のケアに力を入れている。

昨年12月にスマトラ沖で起きた
地震と津波は、インド洋の沿岸諸
国に大きな被害を及ぼし、犠牲者
は20万人を超えました。生き残っ
た子どもや教師も、多くは避難所
での生活を余儀なくされ、トラウ
マに悩まされています。

講座の富永良喜教授はEARTH
のメンバーとして、プロジェクト
に参加。6月中旬から下旬にかけ
てスリランカとインドネシアに出
向き、現地の教職員に子どものト
ラウマに対処するノウハウを提供
しました。

スマトラ沖地震で被災した 教師や子どもたちに心のケアを



スリランカの教師が描いた「津波とその後」

対処法を提供するのが目的ですが、
まずは彼らの心を癒すことが大事
でした。教師が落ち着きを取り戻
さなければ、子どもたちの心のケ
アはできませんから」

富永教授がまず教えたのが、心
を落ち着かせる呼吸法。背筋を
伸ばし、深呼吸をしながら、心
中で自分自身にメッセージを送る
というものです。このほか、ペア
になって前向きな言葉を投げ合う
「絆のワーク」など、日本と同様の
カウンセリングを実施しました。

スリランカもインドネシアも陽
気な国民性。メンバーの目には「日
本人と比べてカウンセリングを受
け入れやすく、立ち直りも早そ
う」と映ったといいます。

「日本人はつらいこと
があると現実を直視

しない傾向が見られ、周りの人も
腫れ物に触るような感じで被災者
と接します。それに対し、彼らに
は神にお祈りする時間があり、そ
こで自分の気持ちと真正面から向
き合えますからね」

現在は、Eーの現地オフィスと
のメールを通して、教職員たちか
らの相談などに応対しています。

「向こうの先生たち

は津波で電化製品が
つぶれ、個別に応じ
られないんです。し
かし、これからもど
んな形であれフォロ
ーアップしていかな
ければなりません」

富永教授は「子ど
もには未来をつくら
ていく力がある」と言
います。教職員がプ
ロジェクトで習得し
たトラウマ対処法を活用し、一日
も早く子どもたちの笑顔を取り戻
してほしいものです。



アチェにて。ここに建っていた校舎は津波にさらわれました

※1
ベルギー・ブリュッセルに本部を置
き、159カ国・311の教職員団体が
加盟する教職員の世界組織。国
際機関のNGO諮問団体として、教
職者にかかわる重要な政策の決
定にも大きな発言力を持つ。

※2
災害に遭った子どもを支援する教
師とカウンセラーの組織。阪神・
淡路大震災での全国からの支援
に報いるため、兵庫県が2000年
に設置。鳥取県西部地震や有珠
噴火災害などで出動した。

サークルわかば

模擬授業などを通して
ステキな教師をめざす



大学院学校教育研究科
教科・領域教育専攻
生活・健康系コース2年

代表

和田博文さん

指導から授業の奥深さを学び、「教師ってステキな職業だな」と実感しています。サークルわかばの研究授業には、子どもたちにとってステキな教師に成長するためのヒントが隠されているのです。

現在、院生4人、学部生2人のメンバーが、それぞれに抱く理想の教師像をかたちにできるよう活動しています。学内外を問わず、興味のある方はぜひ参加してください。

学び続ける者だけが教壇に立つことができます。教員免許を取得する、教員採用試験に合格することは、教師になるために最低限必要なことですが、現場に出てからも学び続けなければいけません。サークルわかばは「教師の本質は授業の中にある」との観点から、自分たちが実際に教壇に立った場面を想定した模擬授業を行い、授業に取り組む姿勢を勉強する団体です。

毎月第2・第4火曜、午後6時から約2時間、共通講義棟111教室で活動しています。第4火曜には、現職の先生方を講師に招き、長年「TOSS(教育技術法則化運動)」という団体の授業研究をされている観点から指導をいただいています。さまざまな切り口の



サークルわかばのメンバー(中央が和田さん)

キャンパス
Campus

Congratulations

おめでとう



教師として制作者として 自分を見つめ作品と向き合う

2005年三田市美術展最優秀賞

(市展賞)受賞

大学院学校教育研究科
教科・領域教育専攻
芸術系コース2年

和田健一さん

【入学後の主な出品歴】

- 2004年 第59回行動美術展(入選)
- 全国公募春日水彩画展(入選)
- 2005年 全関西行動美術展(入賞)
- 三田市美術展(最優秀賞)

中学校の美術科教師になってからの十数年は、たった1枚も絵を描きませんでした。学校や生徒たちを取り巻く状況が非常に厳しく、今、目の前にある問題にどう取り組むか、それがすべてで、自分の絵を描く必然性などまったく感じなかったのです。数年前からやっと、教員としての自分と制作者としての自分との関係を考えられるようになり、少しずつ制作活動を始めました。

今回の受賞作品は、技法的に特に苦労したところはありません。実技教育研究指導セ

受賞作品「よく晴れた日の朝に」



ンターという望めばいつでも絵が描ける環境を与えられている中、どれだけ意味のある時間を過ごせるかということと、美術コースの先生方のご指導に対する感謝、そして気持ち良く大学院(内地留学)へ送り出してくれた在籍校の同僚への感謝の気持ちを抱きつつ制作したものです。



まつ うら まさ し
松浦正史
附属中学校校長

附属中学校の研究 「確かな学力」の育成をめざして

兵庫教育大学が教育実践学を

標榜していることから、附属学校

がその研究実践校であることは

言うまでもありません。附属中

学校の使命は、公的な中学校教育

を生徒に提供することはもちろん

、教育実習校として実習生を

受け入れ、実地教育も行ってい

ます。さらに大学教員の実地教育

研究、論文を作成するための研

究フィールドとしての役割もあり

ます。

ます。

現在の研究テーマ「確かな学力」

は今年で3年目を迎えました。1

年目は「わかる、できる、生かす」

を副題とし、教科研究における

認知的なアプローチの基本を追

究しました。生徒の理解や授業の

目標分析などを取り上げ、手法

としてKJ法などを研究会で実

習し、各教科の授業に生かすこ

とを試みました。教

室の生徒の机の配置

が変わり、授業の途

中、ゴロゴロと机を

移動する音は、学び

の共同化の音、だと

言っています。社会

的構成主義や学びの

共同化の実践例は少

なく、意義のある研

究だと思っております。

もっと時間をかけ大

学教員からも指導を

受けたいと思う

内容です。

3年目は「指

導と評価の一

体化及び学びの共同化の継続」で

す。「興味、関心、意欲」をどう

評価するか。どの学校でも困っ

ているからこそ、附属中学校はこ

のテーマを取り上げました。先日

は、梶田学長から指導を受けま

した。本校では「興

味、関心、意欲」の

評価を学校として一

つの方法に集約す

るのではなく、意

欲の尺度構成を行

う教科、生徒の自

己評価表を利用す

る教科、ポートフォ

リオを利用する教

科に大分されます。

この評価をどのよ

うに指導に生かすか工夫の要ると

ころです。

この研究の成果は11月22日(火)

の附属中学校研究発表会で発表



研究紀要
「『確かな学力』が育つ学習指導の研究」



研究発表会での国語科の授業



附属中学校
設立年…1981年
総括目標…「人生をたくましく豊かに生きぬくために、
考え、鍛え、行動する生徒」
生徒数…287人
※生徒の心身の発達を把握し、一人一人の個性を最大
限に伸ばすとともに、知・徳・体の調和のとれた生徒
の育成に努める。

うれしの交差点

教員養成大学ならではの 多種多彩な「公開講座」を開講

兵庫教育大学では、教育研究の成果を広く社会に提供しようと、市民や現職教員などを対象とした「公開講座」を開催しています。教員養成系大学の特色を生かし、教員向けの学習指導からスポーツ、カルチャーまで幅広いカテゴリーで講

座を開講。みなさんの多様な学習意欲に 대응しています。今年度は17講座(学内科目分)を用意し、現在、下記の2講座で受講生を募集しています。また、来年度のスケジュールは決定次第、兵庫教育大学のウェブサイトなどでお知らせします。

【受講生募集中!あなたの参加をお待ちしています】

㊦期間 ㊦時間 ㊦定員 ㊦受講料 ㊦対象 ※兵庫教育大学(嬉野台キャンパス)で開講

絵画制作

㊦ 11月3日(木・祝)～6日(日)

<連続4日間>

㊦ 13:00～18:00

㊦ 一般

㊦ 15人

㊦ 8,500円



イタリアの歌を 歌いませんか?

㊦ 2006年2月4日～3月5日

<指定の土曜、日曜・全5回>

㊦ 14:00～16:00

㊦ 一般(中学生以上)

㊦ 15人

㊦ 6,500円

公開講座の問い合わせ

総務課社会連携チーム ☎0795・44・2053 office-renkei-t@office.hyogo-u.ac.jp
https://www.secure.daoffice.com/hyogo/

宇都宮洪志君

附属小学校4年

「『生活力』を高めよう!」模型飛行機を作ろうの部を受講

日ごろからどうすれば模型飛行機がよく飛ぶのかを考えていたので、先生の話はとてもよく分かりました。自分で工夫して作った飛行機をみんなと飛ばし合ってもっと興味がわきました。

受講を終えて

榊原颯助君

社町立福田小学校4年

「『生活力』を高めよう!」プールで遊ぼうの部を受講

泳ぐことは得意ですが、今日初めて足にフィンを着けて泳ぎました。水中で顔がビューンと伸びる感じがするほど速く進んですごく楽しかったです。

留学生と地域の人々との 交流をはぐくむ「やしろ国際交流サロン」

「やしろ国際交流サロン」とは、5月から11月(8月と9月を除く)までの毎月1回、兵庫教育大学に在籍する留学生と地域の人々が体験中心の活動を通して交流を深める行事です。

7月21日に本学国際交流会館多目的ホールで開催された国際交流サロン「太極拳と盆踊り」(やしろ国際交流協会主催)には、留学生32人を含む約80人が



参加。夕食を食べながらの懇談の後、中国からの留学生、史栄第さん(大学院修士課程2年)が音楽に合わせて太極拳を披露。史さんから基本動作の説明があり、参加者全員で太極拳をしました。続いて、やしろ国際交流協会の会員の指導で「やしろ音頭」と「炭坑節」の盆踊りもしました。留学生たちは夏の風物詩である盆踊りを体験し、日本文化への理解をさらに深めました。

<今後の予定>

10月20日(木) 絵手紙を体験しよう

11月17日(木) 日本料理(すし・けんちん汁)に挑戦しよう

◎平成18年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)
〈後期選抜試験〉

◎募集人員(97人)

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	若干人
スクールリーダーコース	昼間クラス	6人
	夜間クラス	若干人
教育内容・方法開発コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
生徒指導実践コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	10人
臨床心理学コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	15人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		4人
特別支援教育コーディネーターコース		2人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
生活・健康系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
総合学習系コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人

◎出願期間 10月7日(金)～14日(金)(消印有効)

◎試験日 筆記・口述試験…11月12日(土)

◎合格者の発表 12月2日(金)10:00

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間は嬉野台キャンパスで、夜間は主に大学院神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。※過去の選抜結果はhttp://www.office.hyogo-u.ac.jp/office/new_master_ent/m_selection.htmをご覧ください。

☎入試課 ☎0795・44・2067

☆学校教育学部

◎推薦による出願期間

12月9日(金)～16日(金)(必着)

◎前・後期日程等出願期間

18年1月30日(月)～2月7日(火)(必着)

◎推薦による選抜試験日

18年1月31日(火)

◎前期日程・帰国子女特別選抜試験日

18年2月25日(土)・26日(日)

◎私費外国人留学生特別選抜試験日

18年2月27日(月)

◎後期日程試験日

3月12日(日)

◎平成18年度園児・児童・生徒募集

☆附属幼稚園

◎募集人員

3年保育(3歳児)20人

2年保育(4歳児)50人

※18年度以降、3年保育については1クラス増(20人)の予定です。

◎出願期間 10月31日(月)～11月4日(金)

◎選考結果発表および抽選日 11月12日(土)

☎附属小学校事務室 ☎0795・40・2218

☆附属小学校、中学校

◎公示日 11月1日(火)

☎附属小学校事務室 ☎0795・40・2218

◎大学院修士課程紹介 ビデオ・DVDの貸し出し

大学院修士課程を紹介するビデオとDVDが完成しました。受験希望者や市民に貸出しています。

☎企画課企画・広報チーム ☎0795・44・2334

◎附属図書館の 日曜・祝日開館(試行)

附属図書館では、平日に来館できない市民や現職教員の学習・研究の支援のため、10月から18年3月までの半年間、日曜・祝日(10月9日と冬季・春季休業期間を除く)も開館します。開館時間は13:00～17:00。なお、臨時休館する場合はウェブサイトなどでお知らせします。

☎学術情報課学術情報チーム ☎0795・44・2062

office-gakujutu-t@office.hyogo-u.ac.jp

<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp>

◎附属小学校研究発表会

研究主題「『学ぶこと』と教えることの共鳴(レゾナンス)(1年次)～確かな知を創り出す授業づくり」

1日目…全体会、授業公開、分科会(人間発達科・総合的な学習)

2日目…全体会、授業公開、分科会(各教科・道徳・英語)、講演

◎開催日 18年2月2日(木)・3日(金)

◎場所 附属小学校

☎附属小学校 ☎0795・40・2216

☎0795・40・2219

element@school.u.ac.jp

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/element/index.htm>

◎附属中学校研究発表会

公開授業と教育講演会(講師:梶田毅一学長)。研究テーマ「『確かな学力』が育つ学習指導の研究～興味・関心・意欲の評価のあり方を求めて～」

◎開催日 11月22日(火)

◎場所 附属中学校

☎附属中学校(担当:辻) ☎0795・40・2222

◎第2回幼年教育研究会

研究テーマ「『一人一人の幼児が友達と共に充実感を味わって遊ぶための保育環境を考える』～好きな遊びの環境構成及び教師の援助の変化を読みとることを通して」。研究協議・講演(講師:幼年教育講座嶋崎博助教授)テーマ「身体を使って遊ぶ楽しさ」

◎開催日 10月26日(水)

◎時間 9:00～16:00

◎場所 附属幼稚園

☎附属幼稚園 ☎0795・40・2227

☎0795・40・2228

kinder@school.hyogo-u.ac.jp

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/kinder/>

◎平成17年度 学校教育研究センター プロジェクト研究発表会 及び特別講演会

◎開催日 12月5日(月)

◎プロジェクト研究発表会

各部門(学校問題解決研究部門、情報メディア教育研究部門、実地教育支援研究部門)の研究プロジェクトの進捗状況とこれまでの研究成果の発表

◎時間 14:30～18:00

◎特別講演会

テーマ「演題:LD児用サポートプログラムの実際」(講師:大阪教育大学竹田契一名誉教授)

◎時間 14:00～16:30

◎場所 附属図書館ライブラリーホール

☎兵庫教育大学学校教育研究センター

☎0795・40・2201

編 集 後 記

今回の教育最前線では、教師の指導力があらためて問われる今日、教師の指導力改善への取り組みについて考えてみました。誌面リニューアルした前号は、教育機関や市民の方々からの反響が高く、1,000部増刷といううれしい悲鳴。バックナンバーも含めた問い合わせもありました。バックナンバーは本学ウェブサイト<http://www.hyogo-u.ac.jp>をご覧ください。 (に)

◎あなたの声をお聞かせください

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。ご意見、ご感想、ご希望などがありましたら、どしどしお寄せください。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学企画課企画・広報チーム

☎0795・44・2334 ☎0795・44・2009 office-koho-t@office.hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoku-Shigosen

第9号 2005年10月発行
発行/兵庫教育大学 大学広報委員会
<http://www.hyogo-u.ac.jp>
編集協力/ ㈱神戸新聞マーケティングセンター